

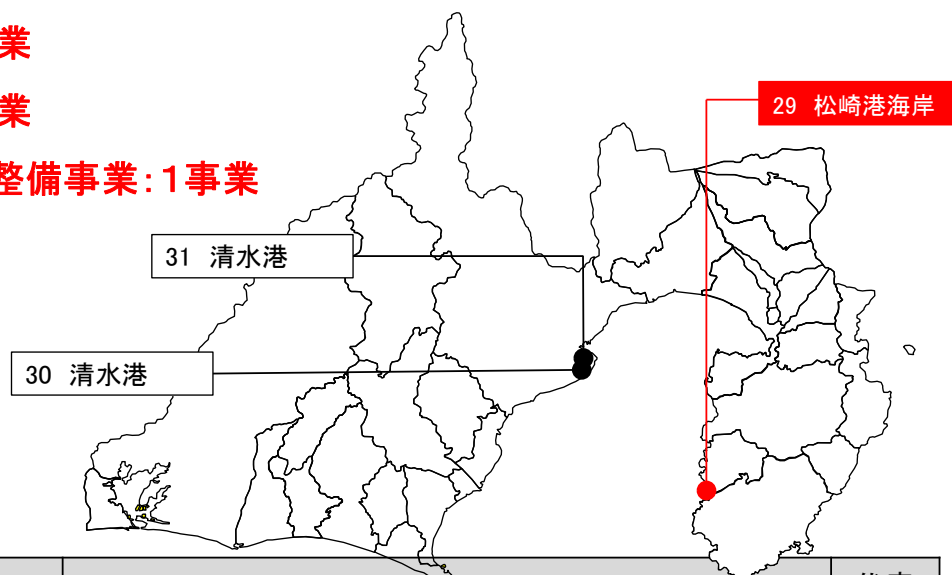
番号	29	令和8年度公共事業再評価調査					担当課名	港湾整備課																															
事業名	高潮対策事業					事業主体	静岡県																																
ふりがな	まつぎきこうかいがん					関係市町	賀茂郡松崎町																																
箇所名	松崎港海岸																																						
事業採択年度	令和4年度		計画期間	令和4年度～令和14年度																																			
用地着手年度	令和ー年度		工事着手年度	令和5年度																																			
再評価理由※	事業採択後5年経過																																						
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	～R6年度	R7年度	R8年度見込	計																																	
	2,418		309	140	160	609																																	
事業概要	(1) 事業目的 想定される津波及び台風等による高潮に対し浸水対策をすることにより、水害に強い海岸を作るとともに、安全安心な県民生活の確保を図る。 (2) 事業内容 堤防(改良): 730 m 水門(改良): 1 基 陸閘(改良): 6 基																																						
【視点1】	(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化 令和6年1月の能登半島地震では、状況把握の困難性や孤立集落の発生等半島地域の課題が顕在化しており、伊豆半島における沿岸住民の生命と財産を守る防潮堤の整備に対する期待は、ますます大きくなっている。 また松崎地区では、地域住民で合意形成された「津波対策の方針」(令和6年3月公表)において、「観光業を中心とする当地区の特性に配慮した構造、外観とする」整備が求められている。 (2) 事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和8年度時点)<table><tr><td>B/C (i=4%)</td><td>参考:B/C (i=2%)</td><td>参考:B/C (i=1%)</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>4.9</td><td>6.5</td><td>7.5</td><td>18.8%</td></tr></table> ・総便益 (B) 110.5 億円 (浸水防護便益: 110.46億円) ・総費用 (C) 22.4 億円 (建設費: 20.48億円、維持管理費: 1.87億円) ○見込まれる効果 (定性的な効果) ・緊急輸送路の浸水被害が低減され、迅速な復旧復興が見込まれる ・災害リスクの低減、景観に配慮した構造に施設更新することで、地域活性化に寄与 (3) 事業の進捗状況 (令和8年度見込み)<table><tr><th colspan="2">区 分</th><th>進捗率</th><th colspan="2">内 訳</th></tr><tr><td colspan="2">事業費</td><td>25.2%</td><td colspan="2">(609 百万円 / 2,418 百万円)</td></tr><tr><td rowspan="2">事業量</td><td>堤防(改良)</td><td>14.5%</td><td colspan="2">(106 m / 730 m)</td></tr><tr><td>水門・陸閘(改良)</td><td>0.0%</td><td colspan="2">(0 基 / 7 基)</td></tr><tr><td colspan="2">用地取得</td><td>ー</td><td colspan="2">(m² / m²)</td></tr></table> 評価 継続が妥当							B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	4.9	6.5	7.5	18.8%	区 分		進捗率	内 訳		事業費		25.2%	(609 百万円 / 2,418 百万円)		事業量	堤防(改良)	14.5%	(106 m / 730 m)		水門・陸閘(改良)	0.0%	(0 基 / 7 基)		用地取得		ー	(m ² / m ²)	
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																																				
4.9	6.5	7.5	18.8%																																				
区 分		進捗率	内 訳																																				
事業費		25.2%	(609 百万円 / 2,418 百万円)																																				
事業量	堤防(改良)	14.5%	(106 m / 730 m)																																				
	水門・陸閘(改良)	0.0%	(0 基 / 7 基)																																				
用地取得		ー	(m ² / m ²)																																				
【視点2】	今後の事業の進捗の見込み 本事業による堤防整備については、地域からの期待も非常に大きく、早期の施設整備が求められている。 今後もコスト縮減に努めつつ、計画的な事業推進を図ることで、令和14年度までの計画期間内の完成を見込んでいる。 評価 継続が妥当																																						
【視点3】 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性	陸閘の統廃合を実施することにより、整備コスト及び維持管理コストの縮減を図っている。また、陸閘の機械設備等について、新技術の導入を積極的に検討し、引き続きコスト縮減に努めていく。																																						
対応方針(案)	(1) 対応方針(案) 本事業を 【 継続 】 する。 (2) 理由 近年、東日本大震災被害や能登半島地震での津波発生により、事業の必要性が高まっており、早急な対策が求められている。さらに、事業の投資効果も見込まれ、地域住民からの期待も大きく、今後の事業の進捗が見込めることから、事業を継続する。																																						

令和8年度 公共事業再評価

高潮対策事業: 1事業

港湾改修事業: 1事業

廃棄物処理施設等整備事業: 1事業



番号	事業名	箇所名	代表事業
29	高潮対策事業	松崎港海岸（松崎地区）	◎
30	港湾改修事業	清水港（江尻地区）	
31	廃棄物処理施設等整備事業	清水港（三保地区）	

1

交通基盤部 港湾局 港湾整備課

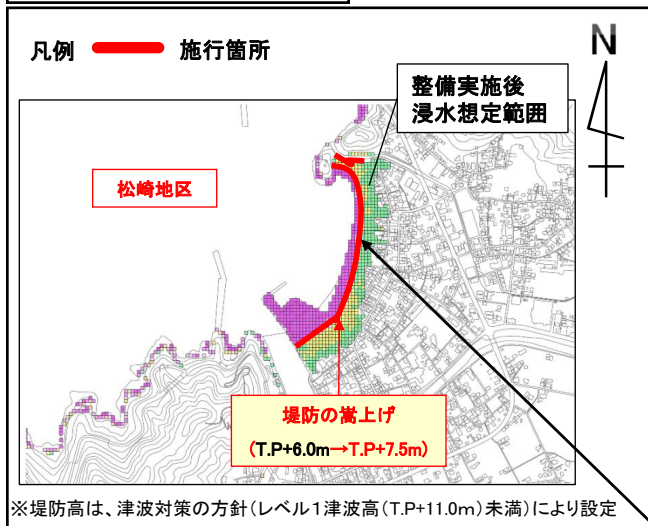
1. 事業箇所位置図



2

2. 事業概要

詳細位置図



(参考) 地区協議会の様子と現場でのイメージ模型展示

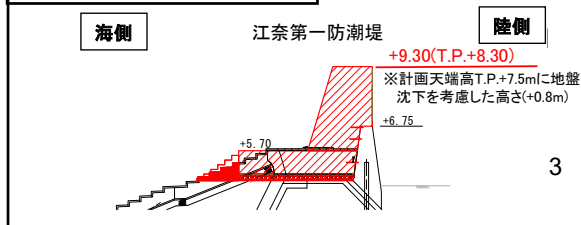
事業目的

- ・南海トラフ巨大地震や東海地震等により発生が予想される津波及び台風等による高潮から、背後地の浸水被害を軽減し、住民の生命と財産を保護することを目的とする。

事業内容

- ・計画期間: 令和4年度～令和14年度
(2022年～2032年)
- ・事業内容: 堤防(改良) 730m 水門(改良) 1基
陸閘(改良) 6基
- ・全体事業費: 2,418百万円

横断図



3. 事業を巡る社会情勢の変化

- 令和6年1月の能登半島地震では、状況把握の困難性や孤立集落の発生等半島地域の課題が顕在化しており、伊豆半島における沿岸住民の生命と財産を守る防潮堤の整備に対する期待は、ますます大きくなっている。
- 松崎地区では、地域住民で合意形成された「津波対策の方針」(令和6年3月公表)において、「観光業を中心とする当地区の特性に配慮した構造、外観とする」整備が求められている。
- 令和7年8月、クルーズ船が松崎港へ寄港し、海水浴など各種イベントが行われ、海岸利用が地域活性化の新たな起爆剤となりつつある。



4. 事業の必要性（事業の効果）

- ・総費用(C)に対する総便益(B)
費用便益比 $B/C = 81.0 / 22.4 = 4.9$ ※前回 8.8
- ・経済的内部収益率 EIRR = 18.8%

総費用(C) = 22.4億円（現在価値換算）

- ・事業費 20.48億円
- ・維持費 1.87億円

総便益(B) = 110.5億円（現在価値換算）

- ・津波想定浸水域における被害軽減効果 ⇒ 便益

①総被害軽減額: 257.6億円

- ・一般資産被害額: 91.0億円
- ・公共土木施設被害額: 163.9億円
- ・公益事業等被害額: 2.7億円

②50年分の被害軽減効果を現在価値換算(総便益)すると

⇒ 110.5億円

5

4. 事業の必要性（事業の効果）

<その他事業効果>

- ・緊急輸送路の浸水被害が低減され、迅速な復旧復興が見込まれる
- ・災害リスクの低減、景観に配慮した構造としたことにより、地域活性化に寄与

整備前後の浸水想定範囲図



6

5. 事業の進捗状況（令和8年度末見込み）

区分		進捗率	内訳
事業費		25.2%	609百万円/2,418百万円
事業量	堤防（改良）	14.5%	106m/730m
	水門・陸閘（改良）	0.0%	0基/7基
用地取得		—%	—



6. 前回からの変更点・理由

前回からの変更点・理由

区 分	前回（R4）	今回（R8）	主な変更理由
①計画期間	R4～R9	R4～R14 （+5年）	- 施設構造、陸閘の統廃合等に関する地元調整に伴う延伸 - 工事用進入路の制約に伴う分割施工
②全体事業費	730百万円	2,418百万円 （+1,688百万円）	- 地盤条件・景観を考慮した構造への変更 - 水門の対津波・耐震性能向上のための工事費用の増加 - 建設資材価格及び労務単価の上昇

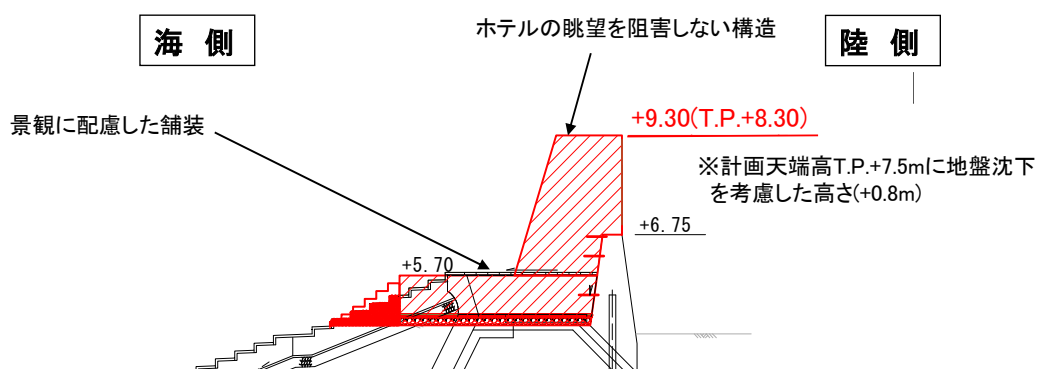
6. 前回からの変更点・理由

全体事業費増加要因

○ 地盤条件・景観を考慮した構造への変更

- ・地質調査の結果、軟弱地盤が確認されたことによる構造の変更
 - ・当該箇所特性に配慮した構造、外観への変更
- とするため、費用増加が生じている。

沈下量を見込んだ構造(例:江奈第一防潮堤)



9

6. 前回からの変更点・理由

全体事業費増加要因

○ 対津波・耐震性能向上のための工事費用の増加

水門の耐震・転倒防止補強、機械設備の高所化に伴う構造改良で設計変更が拡大し、工事費が増加した。

- ・機械設備の高所化に伴う管理用階段の建替え
- ・対津波性能向上のための扉体の取替え(製作)
- ・津波来襲時の転倒防止対策の追加

計画津波高(T.P.+10.80m)

計画堤防高(T.P.+7.50m)



改良概要図

正面図

機械設備の高所化

側面図

下流側

上流側

転倒防止対策

10

7. 今後の事業の進捗の見込み

本事業については、地域からの期待も非常に大きく、早期の施設整備が求められている。

今後もコスト縮減に努めつつ、計画的な事業推進を図ることで、令和14年度までの計画期間内の完成を見込んでいる。

11

8. 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

陸閘の統廃合を実施することにより、整備コスト及び維持管理コストの縮減を図っている。また、陸閘の機械設備等について、新技術の導入を積極的に検討し、引き続きコスト縮減に努めていく。

12

9 . 対応方針（案）

（1）対応方針（案）

本事業を **継続** する。

（2）理由

本事業は、海岸保全施設整備により津波・高潮浸水被害から人命・財産を守るものである。

近年、東日本大震災や能登半島地震での津波発生により、事業の必要性が高まっており、早急な対策が求められている。

さらに、事業の投資効果も見込まれ、地域住民からの期待も大きく、今後の事業進捗が見込めることから事業を継続する。